



しまね情産協

==2025年 春号==



【薄暮有情】

桜の季節、松江の夕方は、ぼんぼりがともり、淡い光の中で満開の桜が映えます。

令和7年度予算の決定

3月12日開催された理事会において令和7年度予算が決定されました。

＜事業実施方針＞

島根県の情報産業は、個々の企業の業態により違いはあるものの、DX投資や教育分野におけるIT投資等があり、引き続き順調な成長を遂げている。

DX時代到来が掲げられる今、情報産業は、生産性向上のツールであることはもとより、新たな社会・産業のイノベーションの担い手として、その役割が地域社会のなかでますます増大している。また、DXが経営そのものにかかわる事柄であることから、IT産業は、総合的な経営アドバイスが可能な存在であることが求められている。

こうしたことを踏まえ、引き続き、（一社）島根県情報産業協会は、協会創立以来の理念である情報関連技術の開発及び利用の促進を一層図るため、会員相互交流の機会を設けるとともに、情報関連技術力向上に関する研修を引き続き協会活動の主な柱にして、活動を行っていく。

行政に対する積極的な協力を行うことにより、施策の実施が情報産業界にとり効果的なものとなるように努める。施策提言活動を引き続き実施する。また、ソフト系IT産業支援に関する情報の収集に努め、会員へ適時適切な提供を行う。

情報産業を担う人材確保は引き続き大きな課題である。そのため、行政団体が行う関連施策の積極的な利用のほか、協会としても、高等教育機関と連携しながら、学生へのガイダンスを実施する。また、本県のIT産業の将来を担う人材育成に資するため、高校生のIT関連クラブ活動への助成を行う。

会員相互交流に関しては、そのうち、講演会・交流会や親睦ゴルフ大会に鋭意取り組む。協会各委員会活動を会員交流の場と位置づけ、その活動に取り組んでいく。また、協会組織運営力向上のため、役員間の情報共有と意見交換に留意し、協会の運営を行う。

令和7年度（2025年度）の人材育成研修については、引き続きオンラインによる研修やeラーニングによる研修を主たる研修方法として実施する。令和7年度においては、過去最高の受講者数であった

令和6年度の受講者数が確保できるように措置するとともに、新たな人材育成研修課題に対応すべく、予算枠を設け柔軟に対応することとする。

＜予算 左表＞

左の表は一般会計と特別会計を合算し、重複部分を調整した純計数値です。支出項目のうち人材育成費はガイダンス経費を、人材育成研修費は、協会主催の人材育成研修事業費を計上しています。

新年度予算は、前年決算見込み又は前年度予算をもとに積算計上しています。事業方針でふれているように、人材育成研修費については、過去最高の受講者を記録した前年度研修受講者数を確保するとともに新たな研修課題に対応する予算を計上しています。

なお、決算見込みに関して、1156の余剰金が見込んでいます。前期繰越金や基金の積立・取崩を除く当期経常収支は459千円程度となります。

	単位千円			
	RO6既計 (3月補正 後)	RO7当初	増減	RO6決算見込
会費収入	5,500	5,730	230	5,686
役員会担当	1,120	1,120	0	1,120
受贈料	10,280	9,425	▲ 855	10,002
補助金等	6,800	6,800	0	6,674
雑収入	980	1,005	25	1,330
繰入金	0	0	0	0
積立金取崩	1,074	1,875	801	328
前期繰越金	694	1,100	406	869
収入計	26,448	27,055	607	26,009
会費費	1,900	2,250	350	2,078
情報交流費	525	525	0	504
普及啓発費	350	100	▲ 250	0
人材育成費	150	160	10	160
地域活性化事業費	500	300	▲ 200	454
人材育成研修費	15,234	15,100	▲ 134	14,534
事務経費	6,738	6,790	52	6,413
繰出金	0	0	0	0
積立金	500	500	0	500
子会費	451	830	379	0
消費税	100	500	400	210
支出計	26,448	27,055	607	24,853
収支差	0	0		1,156
	前期現在高	取崩	積立	期末現在高
	5,844	1,875	500	4,469

【活動報告】

情報産業協会令和7年新年会開催

2025年（令和7年）2月12日松江エクセルホテル東急で、新年講演会及び交流会を開催しました。講演会に先立ち、中国経済産業局高野史広地域経済部長及び島根県議会吉田雅紀農林水産商工委員長に祝辞を頂きました。



コマツのグループ会社である(株)アースブレイン代表取締役社長小野寺昭則氏により「ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む EARTH BRAIN の実践」と題した講演を行っていただきました。講演会には、協会会員のほか、ビジネス研修会会員や、国・県・市の職員の方、84名が参加しました。

小野寺氏の講演は以下の要旨でした。

建設プロセスをデータで構築し、効率化と安全性の向上をめざす建設現場のDX化～スマートコンストラクション～をコマツは標ぼうしている。このスマートコンストラクションの概念の発端は、コマツ会長の坂根正弘氏（広島生まれ、浜田育ちの元経団連副会長。現代の名経営者の一人と称されている）の「技術が素晴らしくても、それを活かすビジネスモデルがないとグローバル社会で勝てない」というメモであった。その後たまたま建設現場を知りうるコマツ系列会社の経営を担うなかで、スマートコンストラクションの考えが生まれた。顧客の問題解決に同時に資するものであり、これがコマツの経営戦略に組み込まれ、現在にいたっている。近年ドローンやAIなど技術開発があり、3Dデータを用いたスマートコンストラクションは、建設計画の修正や現場との連携がとれ、精緻な可視化が可能となっている。建設業におけるPDCAサイクルの一翼を担い、コスト削減のツールとなっている。既存建設機械との連携等課題はあるものの、スマートコンストラクションをグローバルに展開させるのがコマツの戦略である。

小野寺氏の講演後、交流会を近年にない93名の多くの方の参加で開催しました。交流会では、協会福光靖代表理事副会長の挨拶の後、丸山達也島根県知事、山根幸二松江市副市長、及び大久佐明夫安来市副市長に祝辞を頂き、しまね産業振興財団馬庭正人代表理事理事長に乾杯の音頭をとって頂き、盛大な交流会の開宴となりました。およそ2時間の交流会もあっという間に過ぎ、協会北村功協会代表理事副会長の「ダーッ」の掛け声が新年を寿ぐ交流会の掉尾を飾りました。



【活動報告】 第38回 親睦ゴルフコンペ開催

当協会親睦ゴルフコンペが11月16日(土)、出雲空港カントリー倶楽部にて16社22名参加のもと開催されました。朝早いスタートではありましたが、当日は天候も良く気温もゴルフに最適な一日となりました。和気あいあいとゴルフをプレイしながら、会員相互の親睦とお客様との交流を深め、にぎやかで楽しい一日を過ごすことが出来ました。リモートでのセミナーや会議が増えつつありますが、リアルな場所でお互いが面と向かって会話を楽しめる貴重な場として今後も多くの皆様にご活用、ご参加いただけるよう取り組んでまいります。



優勝 **井上 浩** ネットワーク応用通信研究所

2位 **深山 英樹** ダイワボウ情報システム

3位 **芹澤 満** フェンリル

ベストスコア **井上 浩** スコア78

【活動報告】 合同勉強会開催

令和7年3月18日テクノアークしまね大会議室で新年度IT産業振興に関する施策の情報産業協会・しまねソフト産業ビジネス研究会の合同勉強会を開催しました。勉強会には、およそ50名が参加。島根県のIT産業振興策や国の振興策の詳細を国・県の担当者から聞きました。

なお、当日の説明録音があります。聞いてみたい方は、協会事務局までお問合せください。



【会員名簿】

協会の会員は、令和7年3月末現在で、正会員65社、賛助会員20社です。本社所在地別、県内の主な事業所所在地別内訳は次のとおりです。

区分	社数	本社所在地別		主な事業所所在地圏域					
		県内	県外	安来	松江	出雲	大田	浜田	益田
正会員	65	42	23	1	50	9	1	3	1
賛助会員	20	6	14		18	2			
計	85	48	37	1	68	11	1	3	1

正会員名簿

<https://www.shia.or.jp/members/sei/>



賛助会員名簿

<https://www.shia.or.jp/members/sanjyo/>

